

2008年3月期業績見通し

2008年3月期の業績予想について (2007年4月1日～ 2008年3月31日)

- 国内線旅客は弱含みながら引き続き安定した需要が見込まれ、国際線旅客は依然ビジネス需要や海外発需要が好調に推移するものと期待されます。
- 一方で、高騰が続く燃油費に加え、償却費や販売関連費用等の増加もありますが継続してコスト削減を続けることで当初予想通りの営業利益を確保できる見込みです。

以上の状況から通期の業績予想については、4月27日発表の数値に変更はありません。(2007年10月31日現在)

■連結業績見通し

(単位 億円)

	2007年3月期 (実績)	2008年3月期 (予想)	増減額
営業収入	14,896	14,900	4
営業利益	921	790	△ 131
経常利益	625	460	△ 165
当期純利益	326	640	314

■個別業績見通し

(単位 億円)

	2007年3月期 (実績)	2008年3月期 (予想)	増減額
営業収入	12,894	13,500	605
営業利益	762	690	△ 72
経常利益	462	360	△ 102
当期純利益	318	540	221

■配当見通し

(単位 円)

	2007年3月期 (実績)	2008年3月期 (予想)	増減額
1株当たり配当金	3	5	2

※上記の予想は本報告書作成時点(10月31日)において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本報告書作成時点における仮定を前提としています。実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

Q & A

Q 原油価格高騰が続いていますが、業績への影響は?

A 原油価格は高止まりの状況が続いておりますが、当社ではこのような状況が当分の間続くということも想定し、今期の収支の見通しを立てており、今までのところ燃油費はほぼ想定範囲内で推移しております。従って現時点(2007年10月31日現在)では燃油費高騰による業績予想の修正は考えておりません。

燃油費の指標となるドバイ原油価格は80米ドル(2007年10月25日現在)に達しており、これは2006年3月期の期中平均レート37米ドルと比べると2倍以上、前期の同レート61米ドルと比べても大幅に上昇しています。さらに今期の予想レートが63米ドルであることからすれば期初に予想した以上の費用増を懸念する向きもありますが実際には今期使用量の大半をヘッジしているため、原油価格高騰分がそのまま燃油費の増加となることはありません。

現在の騰勢は予断を許さない状況であり、高騰が続くようであればさらなる費用圧迫要因となる懸念はあります。当社としては適正なヘッジにより業績への影響を最小限にとどめるとともに、より一層のコスト削減を推進していく所存です。

Q 当中間期に前年同期に比べ多額の『特別損失』を計上していますが?

A 航空機材に関する臨時償却費223億円を計上したことによるものです。

ANAグループが運航している航空機約200機において、供用開始後にコックピットや客室の装備品の改修等の資本的支出を行った場合、従来は改修時を起点としてその機体価格と同一の耐用年数で減価償却してまいりました。しかし、機体売却時の価格には、改修による資産価値が殆ど反映されることが明らかになったため、機体本体の残存耐用年数満了時まで改修部分の減価償却も終了させるよう、耐用年数および残存価値の見直しを行いました。これに伴い発生する費用の大半を当中間期において臨時償却費として一括計上したことにより、今後は本件に伴う特別損失の計上はありません。